

子どもの安全を
目指して

子どもの安全を守るためのさまざまな取り組みについて
お話をうかがいます。

平成16年10月にオープンしたやまて小児科・アレルギー科は、アレルギーの原因になりうる新建材を使わず、体に無害な天然素材を用いて建てられています。そのコンセプトおよび診療方針について山手智夫院長にお話いただくとともに、看護師である奥様、看護師長にもお話をうかがいました。



有害物質を避けた住環境で 体に優しい医療を実現

山口県光市 やまて小児科・アレルギー科

こだわりの木造建築で 安心できる環境を提供

やまて小児科・アレルギー科の入り口から中に入ると、まず木のにおいがするのにおどろく。そして待合室に座っていると、まるで山のロッジに来たような落ち着いた気分になり、ここが病院であることを忘れてしまう。



2階のミーティングルーム



待合室

この建物のコンセプトは、院長の山手先生の診療方針を体現している。そもそも山手先生の専門は小児内分泌・腎臓であり、現在も低身長をはじめとする内分泌疾患の治療を行っている。しかし、一方でアレルギー疾患にも力を入れてきた。アレルギーをもつ子どもの増加と相関して、山手先生のもとにもアレルギーに苦しむ子どもが増えてきた。

「きっかけは、私の息子が重度のアレルギー疾患になった



山手智夫先生

「最近、アレルギー症状がまったくないという子どものほうが少ない。乳児健診でも、昔の“玉のような子ども”ばかりではなくなりました」と、山手先生はアレルギー疾患の増加を指摘する。

ことです。いろんな治療法を試みた結果や米国生活の経験などから、アレルギーは薬物治療に頼るよりも、衣食住をはじめとする生活環境を整え、子ども自身の自然治癒力を高めることのほうが大切だという考えにたどり着きました。だからこそ、開業するならまずその手本として“子どもの体に優しい建物づくり”が必要と考えたのです」と、山手先生は語る。日本臨床環境医学会の会員でもある山手先生は、まず安心な住環境づくりにこだわり、考えに共感する建築会社の協力を得て、ようやく平成16年10月に開院の運びとなったのである。

建物には無垢のナラ、スギ、ヒノキを使い、壁は海藻糊を固めた漆喰とした。また、床には子どもが舐めてもいいように天然素材のワックスを使っている。来院する子どもやその家族はもちろん、看護師や事務員などのスタッフからも「働いて気持ちいい」と喜ばれている。

まず、「アレルギーは体質である」ことを 理解してもらうことが大切

アレルギー疾患の子どもの親御さんには、まず理解してもらわなければならないことがある。それは、アレルギーは体質によるものであり、完全に治すことは難しいということだ。ただし、症状を出さないように工夫することはできるという。

「水と堤防のたとえでお話します(表1参照)。水(アレルギー症状の原因となるもの)の量が増えれば、堤防(症状を抑える対策)が決壊してアレルギーが発症します。そこで、食事管理、ビタミンやミネラルの摂取、きれいな水と空気などの要素を取り入れ、堤防を高くするよう指導しています」と、山手先生は葉だけに頼らない治療方針を掲げている。

こうした方針では患者によって指導法や治療法が異なるため、1人につき十分な診察時間をとるのが理想的だ。しかし、口コミやHPによって患者数はどんどん増えており、時間の確保が難しくなっているのが現状だ。そこで、重大な役割を担っているのが看護師である。

診察の後に、看護師が 親御さんに補足説明

看護師長の中村さんは、「先生の診察が終わった後、別室や待合室で私たちが親御さんに補足説明する時間を設けています。親御さんからの質問も受け、看護師で答えられる範囲は答え、医師の判断が必要なものは山手先生の指示を仰ぎます」と話す。

また、看護師である夫人の山手智子さんは、「その際が一番心がけていることは、子どもさんはもちろん、親御さんやご家族への心配りを忘れないことです」と言う。



スタッフのみなさん



「地域の人に親しみをもってもらえるような小児科にしていきたい」と、山手智子さん(左)と中村智子さん

表1

堤防	水	雨(環境の悪化)
スキンケア		
殺菌、抗アレルギー剤	物理的刺激(紫外線、電磁波、引っ掻くことなど)	
固形食、液体食、和食	アレルギーをおこす食物、脂、スパイス	
抗カビ剤、抗生剤	腸管内のカンジダ(カビ)、菌玉菌	
減感作、誘発中和療法	すぎ、雑草、イネなどの花粉	
換気、除湿、ダニ対策	ハウスダスト、ダニ、カビ、動物の毛	
抗酸化、アルカリ化	活性酸素(紫外線、タバコ、大気汚染、過労など)	
ビタミン、ミネラル	食物の汚染(食品添加物、残留農薬など)	
浄水器、空気清浄器	空気、水、土の汚染(煤煙、重金属、塩素、環境ホルモンなど)	
休養、睡眠、運動	過労、睡眠不足、精神的ストレス	
規則正しい生活	アレルギー体質(遺伝)	

水が堤防の高さをこえてあふれ出すと、アレルギー(アトピー)症状が悪化します。それを防ぐためには、水の量を減らすか、堤防を高くする必要があります。



親御さんは、なによりも原因が何であるかを知りたいがるという。「原因と対策方法が分かれば悩みは軽減されます。しかし、時間内ですべてフォローすることができない場合もありますので、病気やアレルギー疾患についての手作りの資料をお渡ししています」と、山手夫人。その資料が看護師と親御さんのコミュニケーションツールにもなっている。

アレルギー疾患以外の疾患、なかでも低身長の子どもの親御さんに対しては、「声かけや励ましの仕方についても、スタッフ間で共通認識のもとに行えるよう、常に話し合っています」と、看護師長である中村智子さんは話す。

開院してまだ間もないが、山手夫人に抱負をうかがった。「これまで慌しくて、患者さん1人ひとりの気持ちを汲みとるまでの余裕がありませんでした。少しずつ馴れてきましたので、これからは2階のミーティングルームを使って栄養相談も行うなど、スタッフで力をあわせてがんばっていきます」と、元気な言葉が返ってきた。

〒743-0021
山口県光市浅江1-10-12
tel 0833-72-5041
<http://www2.ocn.ne.jp/toyamate/>

